

## 幸福な時代

僕には一体、幸福というものが分からない  
こんな愚かな者に何が出来よう

こんな憂鬱な男にどうして他人が愛せよう  
こんな放浪人がどうして他人に愛を与え得よう  
幸福な時代に僕は全くのゴミだ

しかし僕は飢えている、幸福に  
しかも、いつの時代にもありふれた幸福に  
疑念なくその幸福を抱き締めることが出来たなら  
だが僕にとって幸福は限りない哀しみだ  
ああ、これが単なる自虐であったなら

幸福は限りない哀しみだ  
幼い子を抱く若い母の微笑と  
その子をのぞき込む若い父の微笑とが  
僕には何と痛々しい哀しみに見えることが  
ああ、これは単なる羨望に過ぎないのか

幸福は限りない哀しみだ  
だが、それが一体どうだと言うのだ  
ただ、僕にはそれに堪える強さがないだけだ  
幸福は限りない哀しみだ  
しかし、それを抱き上げる人は美しい

けばけばしい絶望などにはきっぱり背を向け  
さあ、僕も哀しみを抱き上げよう  
ひっそりと・・・

(1982.6.13)